

週刊 女川湾海況速報 (No.26)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

1 月 15 日から 18 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

観測点



小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週までの水温の下降傾向は一旦弱まり、16 日と 17 日には全層で 9.0℃まで上昇。16 日には塩分も全層で 33.5～33.6 パーミルまで上昇。これらの上昇は外洋水の影響によるものと推定。

水深 [m]	1月15日 (火)	1月16日 (水)	1月17日 (木)	1月18日 (金)
0	8.8 (33.4)	9.0 (33.5)	9.0 (33.5)	8.8 (33.5)
6	8.9 (33.5)	9.0 (33.6)	9.0 (33.6)	8.9 (33.6)

水温の単位は℃。カッコ内の塩分の単位はパーミル（千分率）。1 パーミル = 1PSU（実用塩分単位）。

*15 日と 17 日は水深 5m のデータを使用。

②濁度：先週と比較して全層で上昇し、特に 15 日に高い値（4.6FTU 以上）。経時的には全層で下降傾向があり、鉛直的には底層（6m）で 0.4～2.2FTU 高い。

水深 [m]	1月15日 (火)	1月16日 (水)	1月17日 (木)	1月18日 (金)
0	4.6	3.2	1.9	1.3
6	5.6	3.6	4.1	2.3

（単位は FTU）

③溶存酸素：先週までの上昇傾向は一旦弱まり、9mg/l 台を維持。経時的にはほぼ一定で、鉛直的には底層で 0.2～0.3mg/l 高い。

水深 [m]	1月15日 (火)	1月16日 (水)	1月17日 (木)	1月18日 (金)
0	9.9	9.9	9.8	9.9
6	9.7	9.6	9.5	9.6

単位は mg/l。水産用水基準（水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値）：4.3mg/l 以上。

St.1 の結果

水温、塩分はそれぞれ 9.0～9.2℃、33.5～33.7 パーミルの範囲にあり、鉛直的には水深とともに上昇。濁度は 1.9～3.1FTU の範囲にあり、底層（20m）で最大。溶存酸素は 9.4～9.9mg/l の範囲にあり、底層で最小。

1 月 16 日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分 [パーミル]	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	8.9	33.5	1.9	9.9
5	9.0	33.6	2.5	9.8
10	9.1	33.6	2.9	9.7
15	9.2	33.7	3.0	9.5
20	9.1	33.6	3.1	9.4

本データの利用については、
東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp

までお問い合わせください。